



広報

第846号

平成23年(2011年) 7月15日

毎月1日・15日発行

編集・発行
猪名川町秘書広報室

人口 32,493人
世帯数 11,870世帯
(7月1日現在)

いながわ

〒666-0292 兵庫県川辺郡猪名川町上野字北畑11-1 電話番号 072 (766) 0001 (代表) ファックス番号 072 (766) 3732

被災された南三陸町と女川町に

長期的できめ細やかな支援

6月18日、福田町長と総務課長、危機管理室長が宮城県南三陸町および女川町を訪問し、被災地の町長などとの懇談および被災状況を視察してきました。

これは、「東日本大震災に係る災害応援活動に関する協定」の締結を受けて実施したもので、協定先の南三陸町では、災害対策本部が置かれているスポーツ交流村仮設庁舎において佐藤町長と佐藤総務課長に面談し、女川町では、女川町立第二小学校において災害対策本部部長の遠藤教育長と阿部総務課長に面談し状況

把握に努めました。被災地においては、その被災規模の圧倒的な大きさを痛感するとともに、今回の視察で今後の支援の方向性や配慮しなければならぬ部分を確認し、今後の猪名川町における災害対応にも活かしていきます。

福田町長と町職員が現地を視察



▲防災対策庁舎前で亡くなられた町職員に哀悼の意をささげて合掌 (南三陸町)



▲保存が決定している女川交番を前に津波の脅威とその被害を実感 (女川町)

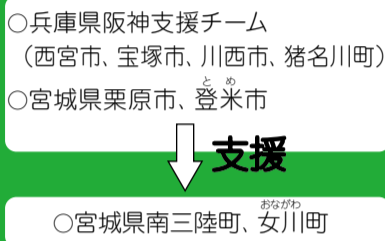


▲災害応援活動協定締結式の様子

災害応援活動に関する協定を締結

猪名川町は、5月21日、西宮市・宝塚市・川西市と兵庫県阪神支援チームを結成し、宮城県栗原市・登米市と連携して、5市3町にて「東日本大震災に係る災

災害応援活動協定の関係図



害応援活動に関する協定」を締結しました。

この協定の締結により、東日本大震災により、庁舎など行政機能を失うなどの甚大な被害を受けた南三陸町と女川町に対して、応急対策および復旧対策の円滑な遂行と、行政機能回復に向けての協力・支援を相互に行っていきます。

今後、本格化する復旧・復興業務に相互に協力し、被災した2町の要請にに応じた長期的できめ細やかな支援に取り組みます。

町の復興支援事業

★募金・義援金

町内各公共施設に募金箱を設置して受け付けています。7月8日現在で344万7,613円が寄せられ、日本赤十字社に送金しています。

また、町から南三陸町と女川町に50万円ずつ義援金を送っています。

★東日本大震災避難者の受入家庭(ホームステイ先)を募集

町内で1カ月以上の避難者の受け入れをお願いできる家庭を募集しています。受け入れにかかる費用などについては、原則、受け入れ家庭の負担となります。

★町内への避難者に関する情報をお寄せください

東日本大震災により町内に避難されている人に、避難元の自治体の情報提供などを行うため、避難者情報の受付を行っています。

▶問合せ 総務課危機管理室 (☎ 766-8703)

町民20人が被災地で支援活動

猪名川町と社会福祉協議会は共催で、6月24日(同27日まで)、東日本大震災で大きな被害を受けた宮城県石巻市にボランティアバスを運行し、公募した20人の参加者が被災地で支援活動に汗を流しました。



▲▼被災地での活動の様子



現地では、石巻市災害ボランティアセンターでコーディネートされた活動先でがれきりや泥の撤去作業と、復興に向けての

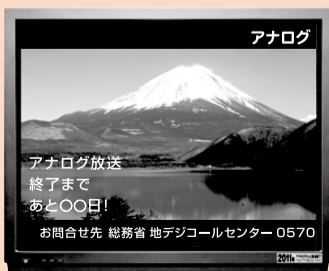
バザーの準備や配布用の衣類の仕分けなどの支援活動を行いました。

参加者からは、「津波の恐ろしさを見せつけられました」「映像だけでは分からなかったが、臭いがひどい」「16年前の阪神・淡路大震災の恩返しができる場を作っていただき感謝しています」などといった感想が寄せられました。

アナログテレビ放送は、7月24日に終了します!!

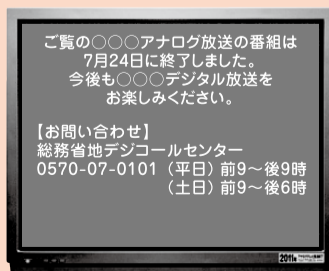
[アナログテレビ放送終了までの画面イメージ] (写真はイメージ。近畿総合通信局提供)

7月1日以降



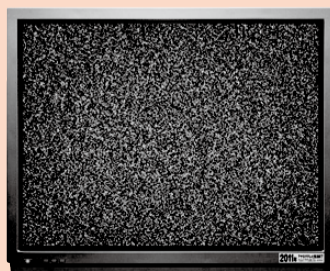
通常番組の画面上に終了日までのカウントダウンなどを表示します。

7月24日正午以降



7月24日正午からお知らせ画面を表示します。

停波後



7月24日24時までに停波し、この後は映りません。

VHSビデオデッキ、パソコン、カーナビ、ラジオなどでアナログ放送を受信している場合も、7月24日以降は視聴できなくなります。

▼問合せ デジタルサポ兵庫 (☎078-3300101)

地デジ対応がされていないテレビは、左記のような画面表示になりますので、至急地デジ対策をしてください。

熱中症に注意！ こまめに水分補給を

夏本番を迎え連日猛暑が続く中、節電でエアコンの設定温度を上げたり、使用を控えたりすると、体力のない人・体調不良の人・高齢者や乳幼児などが熱中症になる場合があります。

夏の衣服は、室内なら皮膚の露出が効果的ですが、屋外では逆に露出を避け、日射対策を心がける必要があります。

水でぬらした布やタオルなどを首に巻くと気化熱で体温を下げられます。また、こまめに水分と塩分の補給も大切です。

詳しくは、保健センター (☎ 766-1000) へ。